

31 悪性腫瘍に対する温熱化学療法と高気圧酸素との併用治療

—初期治療経験例の報告—

灘吉進也¹⁾ 今林和馬¹⁾ 藤原裕士¹⁾

三田井盛将¹⁾ 下河辺正行²⁾ 合志清隆³⁾

今田 肇³⁾ 野元 諭³⁾ 大田 真⁴⁾

- | | |
|--------------|--------|
| 1) 共愛会戸畑共立病院 | 臨床工学科 |
| 2) 同 | 院長 |
| 3) 産業医科大学 | |
| 4) 共愛会戸畑診療所 | 臨床工学技士 |

【目的】悪性腫瘍の先進医療として、化学療法の効果をも高める手段として温熱化学療法と高気圧酸素（HBO）治療の併用を試みてきたので、その初期経験を紹介する。

【対象・方法】2003年7月から2004年6月までに当施設で経験した悪性腫瘍162例の内、HBO治療を行った110例（新鮮例68例、薬剤耐性例42例）を対象とした。その内訳は肺癌26例、直腸癌25例、胃癌16例、乳癌14例、食道癌12例、膵臓癌7例、その他10例である。我々が用いている併用治療は、化学療法剤（CBCD A, CPT-11など）の投与と同時に局所の温熱療法を行い、さらにHBO治療を追加するものである。このような治療を週に1～2回繰り返し行った。治療効果の判定は腫瘍マーカー、画像所見などで行った。

【結果】110症例の治療結果を検討すると著効・有効38例、不変61例、進行11例であった。重篤な副作用の出現は見られなかった。

【考察】従来の治療に抵抗性を示す悪性腫瘍例であるにも関わらず、病巣の縮小や進行抑制が得られたことは、この新しい併用療法の有効性が高いことが示唆された。特に薬剤耐性例に対し効果を認めたことから、HBO治療による化学療法に対する増感作用が深く関与していると考えられた。さらに、疼痛緩和、全身状態の安定に加え併用療法により抗癌剤を通常量よりも少ない量で投与できるなど、副作用も軽く高齢者および全身状態不良例においてもQOLの保持が可能と考えられた。よって、この併用療法は悪性腫瘍に対し有望な治療手段と考えられた。

今回の検討では症例が少数例であったことから、単体の治療効果の判定や生存期間の検討が不十分であった。今後、更に症例を重ねる種類、薬剤の種類、治療回数などの関連性を検討し、悪性腫瘍に対するHBO治療の集学療法における有効性を実証していく予定である。

32 中枢神経系疾患に対する高気圧酸素治療での課題

合志清隆¹⁾ 溝口義人²⁾ 下河辺正行³⁾

Dick Clarke⁴⁾

- | |
|--------------------------------------|
| 1) 産業医科大学 |
| 2) 健愛記念病院 |
| 3) 戸畑共立病院 |
| 4) National Baromedical Services USA |

【目的】中枢神経系疾患には高気圧酸素（HBO）治療が日常的に行われているが、治療効果の確立されたものは少ない。しかし、この問題はこの領域に限ったことではない。中枢神経系疾患でのHBO治療の現状を紹介することで、高気圧医学全般における課題を提起したい。

【方法】HBO治療を行ってきた中枢神経系疾患の自験例を紹介すると同時に、その治療効果や問題点について主に検索した文献をもとに検討を行った。

【結果・考察】虚血性脳血管障害では急性期例に対する有効性は実証されていないが、報告結果から推測すると超急性期のアテローム血栓性脳梗塞に治療効果が高いと判断される。脳出血の急性期の治療では効果が期待しにくい、亜急性期あるいは慢性期の一つの治療法として可能性が残されている。クモ膜下出血後の脳血管攣縮ではHBOの効果が期待されるが治療予後が示されていない。頭部外傷では重症例の死亡率を抑制するが、軽症例では他の治療との差が明らかでない。急性一酸化炭素中毒ではHBOの有効性は明らかであるが、大気圧下の酸素吸入療法との有効性の差が出ていない。減圧障害では脳傷害の診断と治療で、さらに脊髄傷害での病態解明が不十分である。脊髄損傷では症状改善を促進するにしても治療予後に大きな差はない。悪性脳腫瘍の放射線治療では有効性が示されており、ある種の化学療法との併用効果も示唆されている。脳の放射線傷害に対する有効性が示唆されている。

【結論】中枢神経系疾患のHBO治療では、その有効性が示唆されながらも、二重盲検試験にて確認した報告が極めて少ない。このことは他の領域でも同様と思われるが、EBMの時代であることから、本学会主導で多くの疾患における臨床試験を推進する必要がある。